

◀ OfByForコラム ▶  
**地域の**  
 地域による  
**地域の**  
 地域のための  
**Something NEWS**

第36回

久しぶりの北京・天津の訪問記(中)

——北京アグリガーデンのチャレンジ

一般社団法人 光楓座  
 一般社団法人 e f c o . j p  
 代表理事 佐藤建吉

◀(前) (上) より続く▶  
 ▼植物工場への関心  
 気候変動や異常気象、LEDの普及、3・11による原発事故、農家の高齢化、安全安心、健康衛生。これらは「植物工場」への関心や普及を拡大する動機づけとなっている。東京ビッグサイトをはじめとする展示場では、植物工場の展示会が恒例行事として行われ、LEDによる人工照明、水耕栽培、土壌栽培などのシステムは大盛況である。

千葉県柏市、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス駅」前には千葉大学の園芸学部・大学院が母体となる「健康フィードセンター」がある。5月中旬、筆者が顧問をしている農産会社の社長らと同センターを訪ねた。ここには、「NP O植物工場研究会」があり、古在会長、山口理事長と面談した。古在会長は、千葉大学元学長で、以前からお世話になっている。山口理事長との話で「北京アグリガーデン」の存在を知った。丁度、5月末には北京に出かけるので、訪ねて来たい旨を伝えた。

▼北京アグリガーデンを訪問  
 5月29日の午前、北京アグリガーデンを訪ねた。同ガーデンは、国家直属、中国農業科学院の「国家農業科技创新園」という施設であった。この施設は、一般には公開していないそうであるが、前号の本コラム(上)に述べた李君の友人が、国家機関の要人の息子であるとのこと、特別に見学することが出来た。

同日も、この施設には国家のVIPの車列があった。北京アグリガーデンは、2002年に設置され、15年には、下側では赤色にト

いる。そのエントランスマットが実を付けているが、紹介する展示室がある。展示のブースでは、LEDの人工照明の栽培棚があり、植物工場を演出している。本施設では、①工業化農業、②都市農業、③市中農業の三つを目標としている。農業は、食料不足や環境悪化など、中国が解決すべき問題解決には、革新と挑戦が要件であるが、それにチャレンジするモデルのセンター機能として、北京アグリガーデンが位置付けられている。

▼北京アグリガーデンでの衝撃  
 実際に、アグリガーデンのプレハブ風の建屋に入れて頂いた。大規模なガラス建屋は特別に特異ではない。ラック式に積み重ねられた栽培棚には、馴染み深いニラのほか葉物野菜、そして本場の中国野菜が、大規模に栽培されている。

興味深く感じられたのは、オランダ種のミニトマトである。茎が弦のよう伸び、全長5センチ以上に、下から横へ、さらに上へ伸びている。その茎には、下側では赤色にト

また「知恵」のエリアには、ウッドデスクで構成されたワーキングスペースがあり、PCやモバイル端末を用いて仕事や学習ができる。落ち着いた自然らしき中で、ワールドワイドで先進的な

活動を中心とできる環境や状況をつくり出している。

これもプレハブ建屋の中にあり、室内庭園や農園である。ここにも創意が溢れている。まさに、アグリカルチャーの原意のように、土地活用への創作、創造が、ついには文化に進化した表情となっている。

「コミュニティガーデン」(「コミュニティガーデン」)という名前からは、ジョージ・オーウェルの「動物農場」を思い出す。それは、似ても似つかぬ内容であり、野菜や果樹、草木が主役の生活空間を概念とする農場である。

北京アグリガーデンのコミュニティガーデンには、ステーションもあり、イベントやコンサートなども行われている。普通のビルでのそれらの開催とは大いに異なり、ガラス越しの陽光の下で、明るい開放的な雰囲気で行うことができる。写真2

「コミュニティガーデン」(「コミュニティガーデン」)という名前からは、ジョージ・オーウェルの「動物農場」を思い出す。それは、似ても似つかぬ内容であり、野菜や果樹、草木が主役の生活空間を概念とする農場である。

北京アグリガーデンのコミュニティガーデンには、ステーションもあり、イベントやコンサートなども行われている。普通のビルでのそれらの開催とは大いに異なり、ガラス越しの陽光の下で、明るい開放的な雰囲気で行うことができる。写真2



写真2: ステージではイベントも開催

須のものである。▼アップリス  
 中国の取り組みは、前述した①、②、③を目標としているが、次の背景が隠されている。皆で快適な農業を創造する。である。それは、「アグリGarden」という合言葉で表される。具体的には、「アグリ+ショッピングモール+アグリ+エデュケーション」(「アグリ+都市の人々に、楽しい空間としての農園(農苑)を提供し、自然への親しみを創発することを目的としている。これは、日本でもターゲットとしてチャレンジしたいものである。)

「人間」には、必

次回(下)に続く

写真1: 会議テーブルにもグリーン



連載・イベント・下水汚泥バイオマス